

参加者;
秋元、在原、伊藤、斎川、田中、
中島、半沢、安田、山岡、
ゲスト; 神田、

BMW RS CLUB

かわらばん

Jul 3, '06

由井の海岸で駿河湾名物
サクラエビを堪能した日

かわらばん; 中島邦雄 挿絵; 小倉玲子

7/2

うっとおしい梅雨空の下でアジサイが色とりどりに咲いています。咲き始めは淡色で時が移るにつれて濃い碧紫色に変わり、さらに花季の終わりには赤みを帯びてくるので七変化(しちへんげ)とも呼ばれるとか。あじさい寺として有名な鎌倉の名月院などでは、雨に濡れるとことに趣があって美しいと言われるこの花を求め、梅雨空の下に多くの人が訪れています。

今回のツーリングも長期予報ではしっかりと雨でしたが、当日になってみると雨の気配も無く、慌ててバイクに飛び乗り集合地の中央道「談合坂SA」に駆けつけました。長期予報など全く当てにはしていませんが、我々の高い税金を使っているのです。せめて翌日の天気くらいは当たらないものでしょうか。すぐにでもお閻魔(えんま)様に予報官どもの舌を抜いてもらいたい思いです。半世紀以上も前に日本軍がキスカ島から霧の夜陰にまぎれ、一人の犠牲者も出さずに撤退を成功させた話が有りますが、当時の軍の気象官の手記を読むと、失敗した時には腹を切る覚悟で予報を立てたとか。本当に見習って欲しいものです。

はっきりしない天気の中で、かなりの数の車やバスが走っていましたが、流れは快調で定刻に着くと既に六人程が集まっていました。私もメンバーになっているクラブから神田さんがゲストで参加し、暫くして滅多に顔を見せない半沢さんが大きな1200CCのLTで現れました。彼は元メンバーの吉川さんが亡くなった後で、彼のニュー・フラット・ツインを引き継いで乗っていましたが、最近このLTを購入したとか。それにしても大きなバイクです。九時半に8台で河口湖ICへ向かいました。

河口湖方面に入るといつもは目の前にそびえ立つ富士山が雲に隠れ、雲の切れ間から近くの山々が見え隠れしています。暫く走ると途中で安田さんが停まって手を振っています。誰もが飛ばしているので何台かがかなり離れて停まり、彼の処へ行くと「スーとエンジンが止まってしまった」とか。早速に道具を広げて修理が始まりましたが、どうやら電気系統のトラブルらしいとのこと。セルは回りますが始動をしません。「旧車なのに飛ばし過ぎだよ~」とか、「冷えれば始動するよ」とかわいわいガヤガヤやっている内に、エンジンが冷えたら本当に始動しました。そしていざ出発と思ったら今度はハザードを点灯させていた山岡さんのエンジンがかからず、押し掛けで始動させ再び全車で出発。ここで遅れて来た在原さんも合流しました。

河口湖に近い交差点内で右折待ちの安田さんが再度のエンスト。レッカーを呼ぶかエンジンを直すかを安田さんの判断にまかせ、パラパラと降り始めた中を我々は先へ進むことになりました。ここへ斎川さんが駆けつけ計10台になりました。

たかをくくっていた雨は本降りとなり「道の駅、鳴沢」へ飛び込み雨支度をしました。しかしその雨も「青木ヶ原樹海」に近付くと急に上がり道路も乾いています。道の左右の昼なお暗い樹海は相変わらず自殺者が絶えないそうで、毎年、土地の消防団が捜査に入ると必ず数体の死体を見つけるとか。松本清張が「波の塔」の中で此処の事を書いたからか、自殺の名所となった観があります。「樹海探検ツアー」などという趣味の悪い企画も有るそうですが、なんとも気味の悪い処で、走っているとこの世で十分に生きられなかった靈魂にジッと見つめられ、それに纏(まと)わり付かれているような感じがしてなりません。

本栖湖の休憩所にはエンジンが始動したという安田さんも無事に着き、その上に彼と斎川さんは雨にも遭わなかったとか。

この本栖湖には例のオウム真理教の信者が殺され、何人の骨が放り込まれているそうですが、以前に此処のトンネルを走っていたら、真ん中辺りで急にエンジンが消え入るように止まったことが有りました。その時は何かが体の中をスープと通り抜けたような気持にさせられました。そんなことを考えながら「武田信玄の隠し湯」と言われる下部温泉へと軒を下りました。右手に月見草がきれいに咲く処で休憩し、半沢さんは此処から戻って行きました。ご苦労様でした。

R300で日蓮宗總本山「身延山久遠寺」方面へ向かいます。やがて鰐沢(れいかわ)の道路標識が現れました。人情話で有名な鰐沢で今は亡き文楽さんや円生師匠の得意な演目でしたが、一寸ばかり恐い話を思い出しながら富士川沿いに走りました。途中から川の対岸へ渡り身延山鉄道の「身延駅」を抜け、左手の身延線に沿い段々と川幅を広げる富士川を右手に見ながら走りました。その内にそれ迄は明るかった空が急に暗くなり始め、我々の行く手を真っ黒な雲が覆い始めまた。また合羽のご厄介です。この日の昼は由井海岸に有る「井筒屋」と言う店で、由井名物のサクラエビを食べる手筈となっていて、幹事の秋元さんが無理を言って予約を入れてあるとか。その予約の一時に間に合わせようと、海辺へ行く筈が山の中の道を上り下りしながら旧東海道に下り、少し遅れて目指すお店に着きました。雨に遭ってかなり濡れ、誰もがパンツ姿での食事となりました。

サクラエビ漁は6月6日で禁漁となり、つぎの漁期は11月からだそうです。従ってこの店では冷凍物は味が落ちるので生では出さず、軽く茹でて日に干しヒゲを取ったエビをテンプラに揚げるから旨いのだとか。熱々のテンプラを天汁とエビの粉末に塩を混ぜたもので楽しみました。食事中に大雨が降り出し仲居のオバサンは「今日は止まないよ」と言っていますが、その雨が急に上がって日が差し出したではありませんか。天気の内に帰りたいと食事の終わった人から順次出発となりました。外に出ると風が強いのか波立つ雨上がりの海が目に鮮やかでした。

秋元さんの案内で私と山岡さんとが、バイクで少し走った処にある土産物店へ行きました。この日は日曜日で今が旬のシラス漁に舟が出てないと「井筒屋」で聞いていました

が成程、冷凍物だけが並んでいました。サクラエビの漁期には、富士の見える浜辺がピンクに染まる風景がよくTVなどで放映されています。

この小さなエビは昔、網を下ろす時にウキに使う樽を忘れた漁師が、網を深く下ろしたら大量のサクラエビが採れ、それ以来ここの名物となつたと伝えられ漁獲の時期と量を決めて、資源の保護に努めていると聞きました。海沿いの高架道に乗ると右手に見事な海が広がっていました。

帰りは天気にも恵まれ気持ち良く最後を締めくくりました。幹事の秋元さんは雨の中を下見に走ってくれたそうですが、楽しい走りと美味しい食事を堪能することが出来ました。有り難うございました。元気に夏を越し九月にお会いしましょう。

